テーマ ： 災害看護と国際協力・・・南海トラフに備える



カテゴリー：③教育方法

学校概要：近畿大学附属看護専門学校　大阪府大阪狭山市大野東102－1

３年課程　１学年 80 名定員　修業年限３年

教育理念：近畿大学の教育目的にのっとり、倫理観をもった豊かな人間性を形成するとともに、専門的な知識・技術・態度を養い、社会に貢献できる看護専門職者を育成する。

私たちの学校では、「災害看護と国際協力」という科目において、①災害の特徴、災害医療および看護の基本を理解するとともに、災害各期の看護に必要な知識を学ぶ　②学内演習を通して、急性期の救助活動に必要な基本的救護技術を習得することを目指しています。そのため、阪神・淡路大震災時に医師と共に避難所を回った経験のある専任教員だけでなく、系列の近畿大学病院救命救急センター医師・看護師、神戸学院大学防災看護学教授、六甲アイランド病院医師を迎えて、講義を行なっています。



昨年度は、阪神・淡路大震災30年ということで、テレビ局から授業風景を撮影したいという依頼があり、今年1月に TV 放送されています。

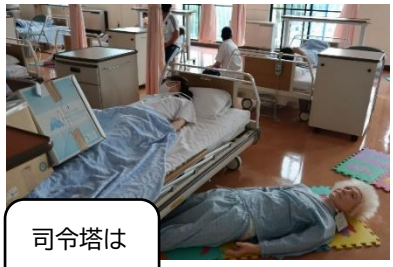
災害看護演習（2年次９月）

病棟で地震が発生したという設定で、救命救急センター看護師（３名）と専任教員（1 名）が協力して演習を担当しています。1クラス40名前後の学生を3グループに分け、看護師役・患者役をローテーションで実施して、患者確認・トリアージ、誘導・搬送を実施し、最後にリフレクションを行なっています。

患者さんが「助けて！」「痛い！」って叫んでいます。
早く、患者さんのところに行かないと・・・
さあ、看護師さんの出動です！



トリアージは
難しい！！









声掛けが
ないと不安

司令塔は
重大・・・





「重い」は禁句！
しっかり持って
運ばないと・・・



＜学生の言葉＞
何とか全員避難させることができて一安心！トリアージの難しさを痛感するとともに、看護師同士の連携・協力が重要だと感じました。

南海トラフはいつ起こるかわかりません。発災時の冷静な行動につながればと考え、この演習を取り入れています。少しでもイメージができるよう今後も講師の方々と協力して頑張っていきます。

